

● 事例 ●

徳島県内の大学と徳島県教育委員会との
連携について

徳島県教育委員会 学校政策課

一 連携にいたる経緯

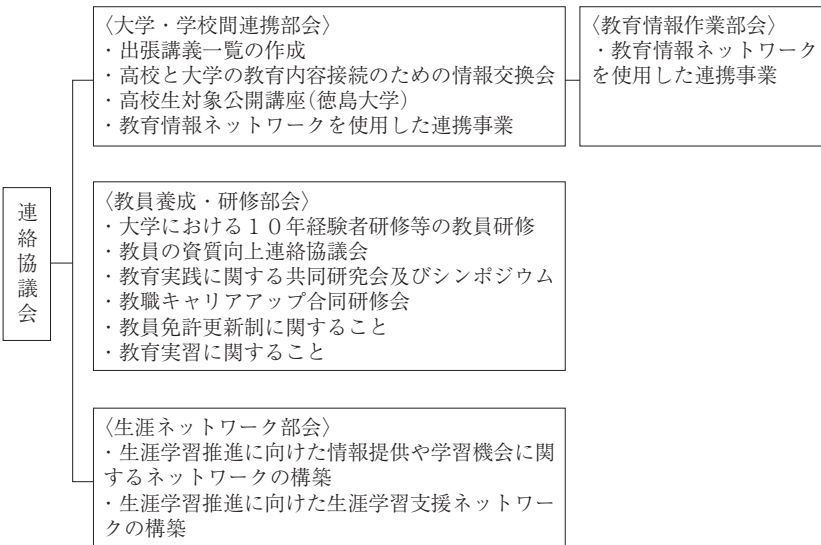
近年、大学のもつ専門的な教育機能を学校教育に生かすことの必要性が高まっていることから、それまで個人レベルでの連携がほとんどであった徳島県教育委員会（以下、県教委）及び各学校と大学との連携をシステム化し、さらには地域の生涯学習とも連携をとっていくことを目的に、平成一五年度に県教委は「地域総合教育力向上推進事業」（～平成一八年度）を立ち上げた。平成一五年五月二九日には、県教委と県内に所在する徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学（徳島学習センター）の五大学との間で、連携に関する覚書を交換した。

県教委と県内の五大学が組織として連携していくためには、学校、地域、大学それぞれのニーズに応えるための具体策を協議していく必要がある。

そこで、同年六月に、連携に関する連絡協議会及び三つの専門部会（大学・学校間連携部会、教員養成・研修部会、生涯学習ネットワーク部会）を設置して、連携の在り方等について具体的な検討を進めている。

専門部会は、年三回開催され、その年度の具体的な取組や次年度の新しい取組等について、情報交換や具体的協議を行っている。各大学から一名ずつ、県教委から四名程度の約一〇名で構成されている。さらに、大学・学校間連携部会の下に教育情報作業部会を置いている。

連絡協議会では、年度末に各学長・所長と教育長など約



組織と平成21年度の事業内容

四〇名が出席して、専門部会から一年間の報告と次年度に向けての提案を受けての協議を行っている。また、各大学長・所長と教育長の間で、教育をとりまく最新の問題等についての議論や、各大学での様々な取組についての紹介が行われている。

二 大学・学校間連携部会における取組

主として、高大連携事業は大学・学校間連携部会において、企画・運営を行っている。

(一) 出張講義一覧の作成

大学における先端的な学問や技術に関する講義に、生徒達が触れることによって、『学び』への関心を高めていくことを目標に行っている。また逆に、大学教員が生徒達の生の声を聞いたり、実態に触れたりすることによって、大学における教科や専門科目の教育に学校現場のニーズ等を反映させていただけばと考えている。

各大学の出張講義一覧を、徳島県立総合教育センターのホームページにPDF化して掲載している。年度当初に更新するとともに、キーワード検索も可能として、利用しやすくしている。平成二〇年度は、延べ一七〇校で出張講義

が行われた。

(二) 高校と大学の教育内容接続のための情報交換会

大学全入時代の到来が指摘されている現在、高校教育と大学教育の円滑な接続のために、学力や学習に対する取組・姿勢の多様化を背景とする問題への対応が強く望まれている。

本会合ではこの状況を踏まえ、高校と大学の教員間の活発な情報交換によって、互いの教育の現状と課題に対する理解を深めるとともに、高校と大学の連携や接続について

忌憚のない意見交換を行うことにより、課題解決の方向を模索し共有することを目的としている。

平成二〇年度のテーマは、「高大接続教育における現状と課題」高校でつきたい力、大学でつきたい力」であった。まず、全体会で大学側からは、徳島大学総合科学部 荒木秀夫教授より「イメ



全体会での講演

ージ育能力から視た学力問題」という演題で講演があった。また高校側からは、県教委美馬持仁指導主事より「高校生につきたい力」という演題で講演があり、それらを受けてのディスカッションが行われた。その後、国語、数学、物理、化学、生物の五つの分科会で意見交換をした。

様々な教育課題や問題意識の共有等、高大教育の円滑な接続をめざして、学力だけでなく人間力など多岐にわたる分野について率直な情報交換がなされた。大学関係者二五名、高校関係者四五名、県教委関係者八名の計七八名の参加であったが、実施後のアンケートによると、「とても参考になった」と「参考になった」をあわせて九六・七％であり、参加者の満足度は高かった。今年度は、より充実したものとするために、他の科目でも分科会を行うことや、ディスカッションのあり方などについて検討を進めたいと考えている。



分科会での情報交換

特集・高大連携

(三) 高校生対象公開講座

この事業は、授業時間の関係などから、徳島大学のみと連携している事業で、平成二〇年度は四講座を二七名の生徒が受講した。

平成一四年度に「意欲のある生徒に、高校での授業以外にも高いレベルの学問に触れる機会をつくりたい」という高校側からの要望があり、平成一五年二月に徳島大学と県高校長協会が「徳島大学公開講座に関する協定書」に調印した。

さらには、平成一六年三月に徳島大学長と県教委教育長との間で、高校生に大学の授業を聴講させることにより、教育内容の理解を深めさせるとともに生徒自らの進路決定への意欲的な取組の促進に資することを目的として、「徳島大学公開講座に関する協定書」に調印がなされた。

実際の連絡と調整及び必要な協議を行うために、「高大連携連絡調整協議会」を設置して、公開講座の実施が効果的かつ適切に行われるようにしている。

近年、高校生が、オープンキャンパスや出張授業等で大学の講義に触れる機会が多いが、高度な学問について系統的に学べる機会は決して多くない。受験勉強だけでなく、新しい知識を身につける貴重な機会となっている。この事業は、特に学長をはじめ大学の理解と協力により行われて

いるものである。そのことを忘れず、引き続き、参加者を増やしていくことを考えていきたい。

そのような中で、徳島大学のフランス語の公開講座で学習した生徒が、姉妹校との交流で、フランス語であいさつを行い、相手校から高い評価を得たことがあった。この事業の意義を改めて感じさせられた。

(四) 教育情報ネットワークを使用した連携事業

教育情報作業部会では、教育情報ネットワーク（TV会議システム）を活用した遠隔授業を行っている。昨年度は、四国大学と新野高校の間で「携帯電話・PCの電子メール機能を用いたレクチャー及びワークシヨップ」、徳島大学と富岡東高校羽ノ浦校の間で「エビデンスに基づいた看護技術についての講義及び質疑応答」という内容で授業が行われた。

大学から離れた位置にある高校では、なかなか大学の授業に触れる機会に恵まれないが、このような状況を解決す



遠隔授業

一つのツールとしてこの事業をもっと活性化していきたいと考えている。

三 教員養成・研修部会における取組

県教委としては、大学の人的・知的資源のバックアップと先端的な施設設備の利用によって、教員研修の充実が図られ、教員の資質向上につながることを期待している。また、大学教員も高校教員と直接触れ合うことにより、学校現場の実情や現職教員のニーズを知ること、教育課題の研究推進につながるよう期待をしている。

(一) 大学における一〇年経験者研修等の教員研修

一〇年経験者研修をはじめ、各種研修で大学と連携した講座を設けた。平成二〇年度は、徳島大学一三講座・鳴門教育大学一五講座・徳島文理大学三講座・四国大学二講座・放送大学全講座が開設され、三三講座に延べ三九一名が参加した。

(二) 教員の資質向上連絡協議会

第二回専門部会と併せて開催され、教員養成の場である大学、採用・研修の任務にあたっている県教委、実践の場

としての幼稚園・小学校・中学校・高等学校の代表者で構成されている。教育実習、教員採用状況、研修等について意見交換をしている。

(三) 教育実践に関する共同研究及びシンポジウム

一〇年経験者研修受講者の中から指名された高校教員と大学教員が、夏季休業中を中心に教育実践力を高めるための共同研究をして、その結果をシンポジウム形式で発表している。平成二〇年度の研究テーマは、①学校における組織的・計画的な食育の推進②特別な支援を要する児童・生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かい指導のあり方であった。

(四) 教職キャリアアップ合同研修会

教員を志望する大学生等を対象に行っている。研修内容は、教職員の使命感・学習指導要領と学力観・新任教員との意見交換会・特別支援教育・総合的な学習の時間・学力向上の取組についてであり、現職教員や指導主事を講師として開催している。

(五) 教員免許更新制に関すること

教員免許更新制を円滑に実施していくため、当該制度や免許状更新講習の周知方法等の諸課題について情報交換や

協議を行った。

(六) 教育実習に関すること

昨年度まで、「教員の資質向上連絡協議会」で協議されていたが、多くの意見や課題が寄せられたため、専門部会でも取り上げることとなった。

四 生涯学習ネットワーク部会における取組

長期的展望に立った生涯学習システムの構築について協議がなされている。

(一) 生涯学習推進に向けた情報提供や学習機会に関するネットワークの構築

県内五大学と県教委が一層の連携を図る中で、徳島県立総合高等学校の機能充実と徳島県立総合教育センターの「まなびひろば（生涯学習情報システム）」の利便性をさらに高めることにより、県民の多様化・高度化する学習ニーズに対して的確な情報提供や学習機会を拡充するための方策を協議している。

(二) 生涯学習推進に向けた生涯学習支援ネットワークの構築

「徳島県教育振興計画」に示された家庭の教育力の向上や地域の教育力の向上をめざした様々な取組、及び体制づくりに向けた各種活動を推進するため、県内五大学と県教委が連携して取り組むべきテーマや目標等を協議している。

五 終わりに

大学関係者の御理解・御協力を得て、各専門部会での取組は、着実に定着し成果をあげている。大学側と高校側・県教委関係者が、目的や意義などをきちんと共有して取り組んでいる結果でもあると考えられる。

また、様々な課題に対して、大学側、高校側そして県教委関係者が率直に意見を交換する中で、お互いの状況や考え等が理解でき、良い人間関係が構築されている。そして、さらに内容の濃い協議がなされている。

今後とも、事業内容等の改善に努め、より充実した連携事業になるようにし、徳島県教育振興計画が目標とする「郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立した、たくましい人づくり」に、全力で取り組んでまいりたい。